

東京都江東区

(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_江東区

【A. 取り組みの全体像】

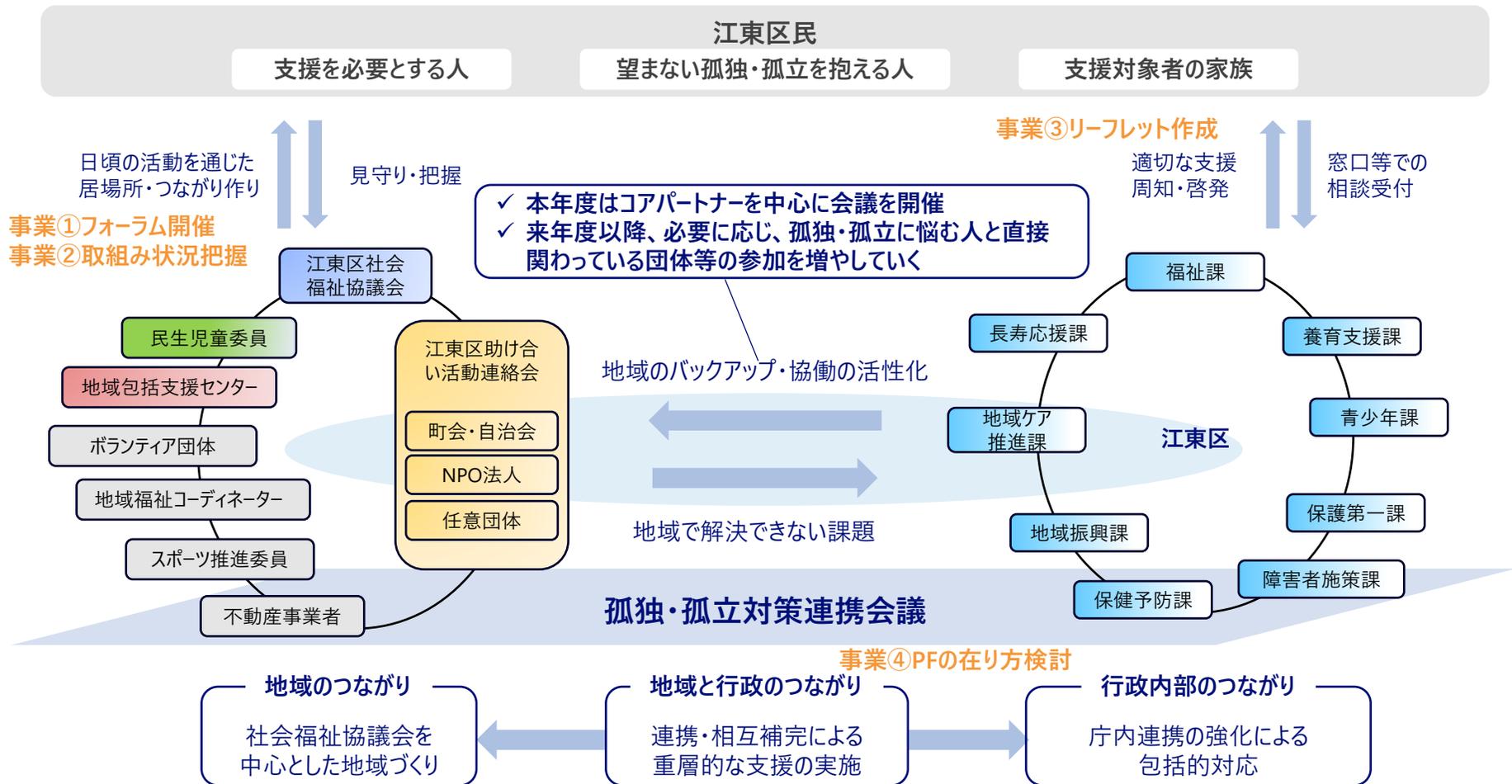
1.自治体の概要							
	自治体名		江東区	担当部局名	福祉部 長寿応援課	人口	524,310 (人) <2020.10/国勢調査>
	自治体内連携	庁内連携部局 (メイン)	福祉部 (福祉課、地域ケア推進課)		庁内連携部局 (メンバー)	地域振興部 (地域振興課、青少年課)、障害福祉部 (障害者施策課)、生活支援部 (保護第一課)、保健所 (保健予防課)、こども未来部 (養育支援課)	
		庁内連携内容 ※会議体、情報共有	庁内関係部課との横断的な連携体制の構築、社協や助け合い活動連絡会との連絡調整		庁内連携内容 ※会議体、情報共有	情報交換及び連携の推進	
2.形成をめざす地方版連携PFの姿							
従前の取り組み <small>※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等</small>	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者地域見守り支援事業 【目的】社会的孤立を防ぎ、高齢者が安心して暮らすことができる社会を作る 【実施】先進的な活動団体の見学、セミナー開講、プラン作成支援、開設一時金の給付 【構成員】約70の町会・自治会等の地域主体、400を超える民間事業者 江東区助け合い活動連絡会 【実施】孤独・孤立対策を含めた見守り活動 【構成員】地域の支え合いや見守り活動に取り組んでいる町会、自治会、NPO法人など 	実現したい状態 <small>※構築する仕組み／支援対象の住民を取り巻く環境</small>	最終的なゴール	<ul style="list-style-type: none"> 地域、行政内部、地域と行政という3つのつながりの連携・協働による孤独・孤立に対する包括的な支援体制の構築 プラットフォームによる孤独・孤立対策の安定的・継続的な推進体制の確立 			
			今年度のゴール	<ul style="list-style-type: none"> 孤独・孤立対策推進法の施行を見据えた今後の取り組みの整理 江東区における孤独・孤立対策の推進体制の整備 地域における孤独・孤立の問題の解決の仕組化 優先的に取り組む課題の整理・共有 市民への孤独・孤立対策事業の周知 			
3.地方版連携PFの外部連携体制			4.PF連携による価値や工夫_考え方				
地方版連携PF <small>※各種団体が「水平的」「包摂的」に集う最も大きな枠組み</small>	参画メンバー	<ul style="list-style-type: none"> 区の関係各課、社会福祉協議会、江東区助け合い活動連絡会に参加する町会自治会・NPO法人・任意団体、地域包括支援センター、民生委員で設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 方向性に関する具体的な議論をスムーズに推進するため、まずは地域の実情を深く知るコアメンバーを集めたコンパクトな会議体でスタート。取り組みを進めるなかで、孤独・孤立対策に協力いただける企業・団体等に随時参加いただき拡張するフレームとする。 青少年、高齢者、生活困窮者や子育て世帯など、各分野でそれぞれの専門性を生かして相談支援体制を整備し、複数の分野にまたがる課題などは、必要に応じて組織間において連携を密に図りながら対応してきた。今後は新たに孤独・孤立というテーマで横ぐしを通した連携強化を図ることで、孤独・孤立に悩む人を誰一人取り残さずに支援。 				
	選出・打診時の工夫	<ul style="list-style-type: none"> コアメンバーである社会福祉協議会や江東区助け合い活動連絡会と共に、取組意義や今年度のゴール感を事前にすり合わせたうえで参加を打診した。 					
地域協議会 <small>※特に専門性の高い支援をおこなう団体等で構成</small>	参画メンバー	<ul style="list-style-type: none"> 今後設置を検討 					
	選出・打診時の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ヒアリングで意見の出た、介護事業者・訪問診療を行う医師等の巻き込みについて検討を行う。 					

(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_江東区

【B.連携PFイメージ】

5. 連携プラットフォームのイメージ図

※主な関係者（自治体、連携先支援団体、住民等）、連携における取組内容、連携による提供価値等を記載



お互いの取組み把握・顔の見える関係づくりを通じ、孤独・孤立に対する包括的な支援体制の構築を目指す

※参加者については現時点での候補であり、今後変更の可能性はある。

(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_江東区

【C.試行的事業一覧】

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の
ポイント・工夫

- 孤独・孤立対策に関する区内の資源を把握し、支援団体間で情報共有し、困りごとを抱える方を必要な支援に結びつけられるようにする
- 地域、行政、地域と行政の3つのつながりづくりを進め、連携強化を図る

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先
1 PF形成に向けた フォーラム開催	<ul style="list-style-type: none"> • 孤独・孤立対策についての講演会・フォーラムを開催した。 • 有識者による講演ののち、質疑応答を行った。 • 区報での宣伝や、区内約100か所の掲示板へポスター掲示を行った。 • 孤独・孤立対策についてのフォーラム動画を撮影・編集し、区公式YouTubeチャンネルでアーカイブ動画を配信した（3月4日）。 	<ul style="list-style-type: none"> • 孤独・孤立は誰にも起こりうることあり、身近な問題であるという社会認識の醸成住民への周知・意識付け • 孤独・孤立へ対策する支援策の周知 • 対策推進法施行後の施策の方向性の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 令和6年2/6(火)19時から20時半 ✓ 令和6年3月4日YouTubeにて配信 <p>【会場】 総合区民センター レクホール</p>	<p>【イベント会社】 東京ベイネットワーク 200万円 【資料印刷】 アクセア 30万円</p>
2 NPO等における 人とのつながり・ 居場所づくりに係 る取組み調査	<ul style="list-style-type: none"> • オンラインのアンケートにて、区内で活動するNPOやボランティア団体等における人とのつながり・居場所づくりに係る取組みを調査した。 • 区内のNPO法人、社会福祉法人、一般社団法人、ボランティア団体等を対象に、活動内容、人とのつながりに関連する取組の有無等を把握した。 	<ul style="list-style-type: none"> • 区内の孤独・孤立PFに関連する取組を実施する団体の把握、官民PFに参画意向のある団体等の発掘 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 1月23日発出 ✓ 2月6日〆切 	<p>マクロミル 100万円</p>

(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_江東区

【C.試行的事業一覧】

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の ポイント・工夫

- 孤独・孤立対策に関する区内の資源を把握し、支援団体間で情報共有し、困りごとを抱える方を必要な支援に結びつけられるようにする
- 地域、行政、地域と行政の3つのつながりづくりを進め、連携強化を図る

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先
3 広報物作成 (フォーラム 宣伝チラシ・ 窓口案内 リーフレット)	<ul style="list-style-type: none"> • フォーラムの開催を宣伝するチラシ・ポスターをデザイン・印刷し、区内の掲示板に掲載を行った。 • 相談窓口について、リーフレットに一覧化し、保健所や地域包括支援センターなどへ配布した。 	<ul style="list-style-type: none"> • フォーラムの宣伝 • 孤独・孤立を抱えている区民や、その周りにいる手を差し伸べられる人へ困った時に頼れる窓口や居場所があることの周知 <p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢フォーラムへは想定以上の申し込みがあり、当日は110名が参加した。 ➢専門職による対応が可能な保健所や地域包括支援センター、生活保護担当課等、区民からの相談が多い部署へ配布が行われ、市民へ周知・啓発が行われた。 	✓ 令和5年12月～	エビス印刷 40万円
4 孤独・孤立対策 へ向けたPF体制 の検討	<ul style="list-style-type: none"> • PFの具体化へ向け、江東区助け合い活動連絡会を中心とする地域の担い手と庁内担当課で計3回の開催し、議論を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> • 望まない孤独・孤立を抱える人に対する包括的な支援体制の構築 <p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢本事業期間内で3回開催され、参加者同士の顔の見える関係性や、意識醸成がなされた。 ➢参加者からは、試行的事業をよりよくするための意見をいただき、事業へ反映させていくことができた。 ➢また、町会・自治会コミュニティの希薄化や地縁の無い居住者へのアプローチ等、地域の現状・課題について把握された。 	✓ 令和5年12月～	-

7. 次年度以降に向けた事業等の案

※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ（あれば）を列举

- PFにおける連携強化（会議体開催による意見交換・情報共有）
- 支援対象者に対する具体的な対応方針の検討

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- 本事業期間では、特別に何か公表は実施していないものの、フォーラムの冒頭では区長が挨拶を行い、その様子をX(旧Twitter)のアカウントにて発信した。江東区として今後発信を検討していく。
- 来年度以降は、例えばHPを作成してそこに孤独・孤立対策関連の情報を集約し、区民への周知を図るなども含め、どの媒体に何の情報を載せるのが適切か判断しながら具体的な検討を行う。

(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_江東区

【C.試行的事業一覧】_1.「孤独・孤立」を考えるフォーラム開催

概要

- ・ 孤独・孤立対策についての講演会・フォーラムを開催。
- ・ 有識者による講演ののち、質疑応答をおこなった。

工夫点

- ・ 事前の区報掲載や、区内約100か所の掲示板へのポスター掲示を実施することで参加者を募った。
- ・ 動画を撮影・編集し、区公式YouTubeチャンネルでアーカイブ動画を配信することで、区民へのさらなる周知・啓発を行う。

結果

- ・ 当日のフォーラムへは、区内で活動を行う方々を中心に、110名が参加。
- ・ 江東区公式YouTubeチャンネルへアップした当日のアーカイブ動画については、配信後約1週間で、279回再生された。

ねらい

- ・ PF参加団体間の情報共有・連携強化
- ・ 孤独・孤立へ対策する支援策の周知
- ・ 対策推進法施行後の施策の方向性の確認

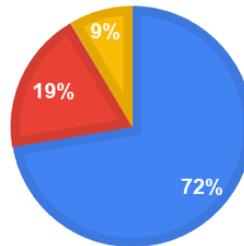
当日の様子



当日の参加者アンケートの結果

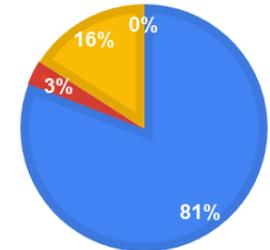
1. 今回の講演会を受けて、以前よりも孤独・孤立状態の人のイメージが具体的になりましたか。

■ 具体的になった ■ 変わらない ■ 無回答



2. 今回の講演内容を思い返して、ご自身の身近に孤独・孤立状態の人はいると思いますか。

■ いると思う ■ いないと思う ■ どちらともいえない ■ 無回答

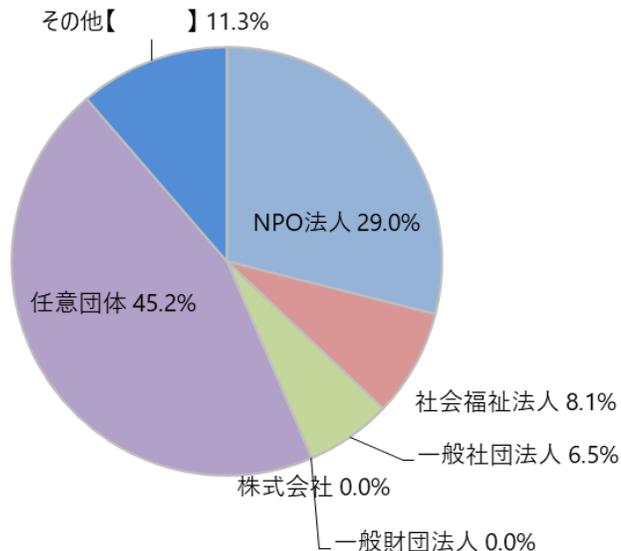


(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_江東区

【C.試行的事業一覧】_2.人とのつながり・居場所づくりに係る取組み調査

概要	<ul style="list-style-type: none"> オンラインのアンケートにて、区内で活動するNPOやボランティア団体等における人とのつながり・居場所づくりに係る取組みを調査した。 区内のNPO法人、社会福祉法人、一般社団法人、ボランティア団体等を対象に、活動内容、人とのつながりに関連する取組の有無、PFへの参画意向等を把握した。 	結果	<ul style="list-style-type: none"> アンケート実施期間：2024年01月19日(金)～2024年02月23日(金) 216団体へ送付し、62団体より回答を受領。ネットアンケートとしては非常に高い割合であった。 「孤独・孤立（人とのつながり）にかかる問題に取り組む必要性を感じていますか。」という質問へは、95.2%の団体が「はい」と回答した。
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> アンケートのタイトルを、「NPO等における人とのつながり・居場所づくりに係る取組み調査」とし、孤独・孤立には一見関係がなさそうな団体からも幅広く情報収集を行った。 	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 区内の孤独・孤立PFに関連する取組を実施する団体の把握 官民PFに参画意向のある団体等の発掘

回答団体の属性



アンケート回答

Q18：活動の中で孤独・孤立（人とのつながり）にかかる問題への取組の必要性を感じた場面がありますか。（一部回答抜粋）

独り暮らしの年よりのかたにあったとき
 登校拒否や自傷、精神的なダメージなどにより社会との関係性が薄くなり生涯復帰できなくなる
 格差が広がる中で、社会的養護を必要としている子供達の増加。
 独居生活の老人が増える中、介護福祉の充実化が必要と思える。
 会員の高齢化により、連絡の取りづらい人が増えたとき
 ここ10年で高齢一人世帯の孤独死が2件発生した。
 どちらも本人情報が全く掴めておらず見守りの対象外であった。
 障害児者と抱えるご家庭が学校を卒業して、保護者会や親の会等との関係性が希薄になると老障介護になっているケースが散在する。親の高齢化。
 必要性は感じていたが、「老人クラブ」という事で入りたくないという人が多くいる。
 町会には200名強の75歳以上の方がいるが、会に入っている方は（60歳以上）110名である。
 コロナをきっかけに暮らし方やこどものあそび方が変化している。人とのつながりは子育て中の親にも子にも必要であり、様々なかたちでリアルなふれあいができるよう、今もこれからも場の提供をしていく。
 近所で孤独死をする人がいること
 ひきこもりの8050問題の支援をする時。ひきこもり当事者が高齢になって、親が亡くなった後も孤立しない手厚い体制があるとよい。
 地域でのつながりがない高齢者や認知症の方、障がい者等への声かけ、働きかけが喫緊の課題になっている。
 高齢者の方が1名でカラーリング教室にきており、みなさんが仲良く会話されている姿を見て、孤独等にかかる問題への取り組みに必要性を感じました。
 障害を抱える子の保護者は孤独を感じている事が多いです。講演や面談でアンケートをとると、そう答えが返って来る事が度々ありました。

(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_江東区

【C.試行的事業一覧】_4.孤独・孤立対策へ向けたPF体制の検討

概要

- PFの具体化へ向け、江東区助け合い活動連絡会を中心とする地域の担い手と庁内担当課で計3回の開催し、議論を行った。

工夫点

- 孤独・孤立は幅広い対象者を支援する必要がある、江東区は区内の活動者の数も非常に多い。そのため、まずはPF設立のための準備会的な位置づけとし、主要コアメンバーによるスモールスタートで取組みを開始。

結果

- 本事業期間内で3回開催され、参加者同士の顔の見える関係性や、意識醸成がなされた。参加者からは、試行的事業をよりよくするための意見をいただき、事業へ反映させていくことができた。

ねらい

- 望まない孤独・孤立を抱える人に対する包括的な支援体制の構築

当日の様子



第2回参加者一覧

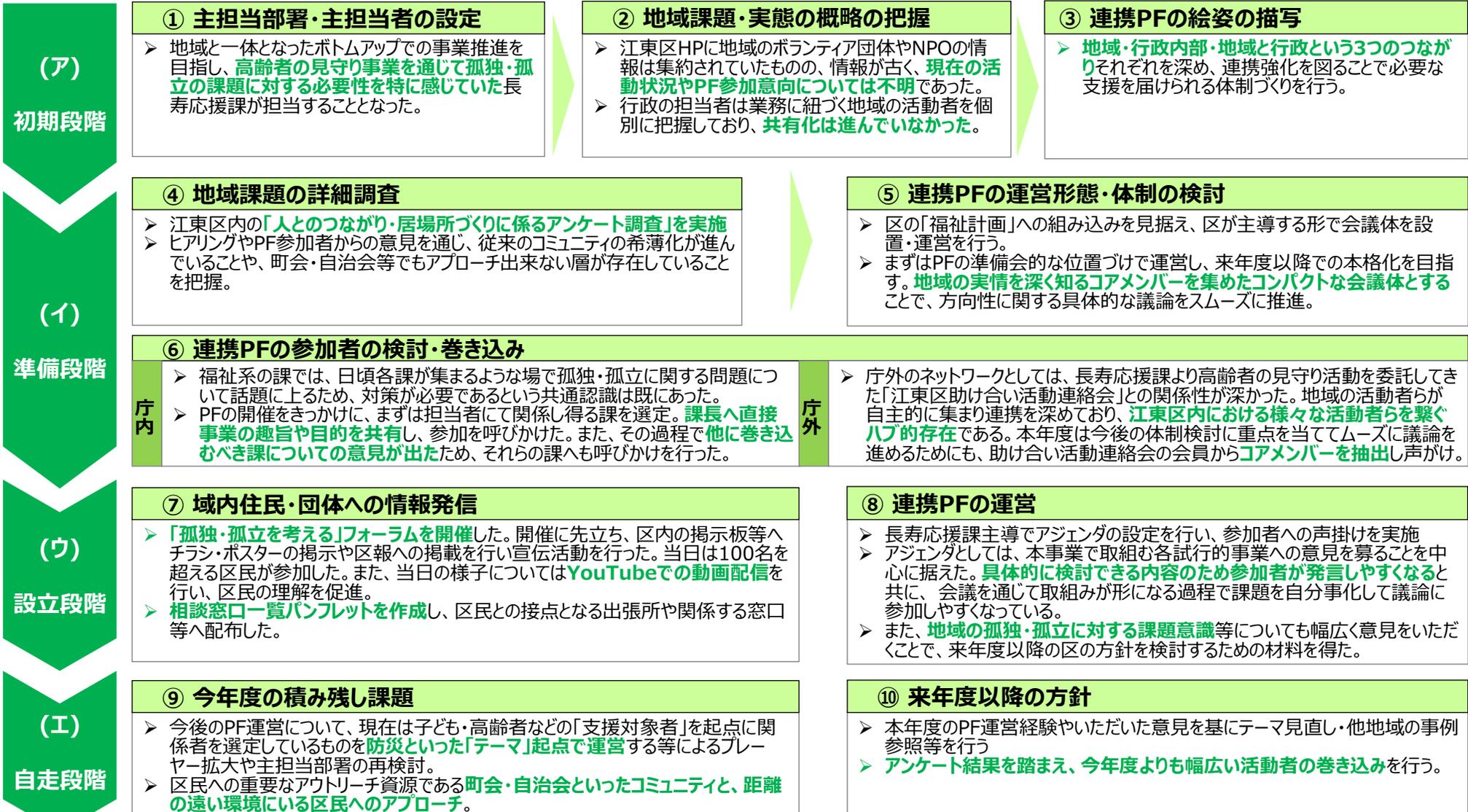
← 江東区内活動団体・社会福祉法人など → ← 江東区 →

所属	役職	所属	役職
南砂地区民生・児童委員協議会	副会長	福祉部	部長
東陽長寿サポートセンター	管理者	長寿応援課	課長
江東区スポーツ推進委員会	会長	福祉課	課長
江東区助け合い活動連絡会	代表・事務局長	地域ケア推進課	課長
南砂住宅自治会	会長	地域振興課	課長
大島6丁目団地自治会	副会長	青少年課	課長
NPO法人深川長屋	理事長	障害者施策課	課長
江東社会福祉会		保護第一課	課長
コープ南砂助け合いの会	運営委員	保険予防課	課長
砂町よっちゃん家	代表	養育支援課	課長
株式会社ドリームジャパン	代表取締役		
江東区社会福祉協議会地域福祉推進課	課長		

参加者よりいただいたご意見（一部抜粋）

- この3カ月で地域の様々な課題が明らかになった。問題は、どうこのPFを継続するかということだろう。年2回（5月に年度の計画を議論し、2、3月に評価する）程度は開催してはいかがか。
- **介護事業者や医師会、大学等への連携呼びかけ**が重要だろう。
- 江東区は社会的資源が豊富にある。**事例報告会のようなものを開催**してもよいのではないか。
- 幅広い主体が最も**まとまりやすいテーマは防災**だろう。
- PF開始時に、テーマについて**共通認識が取れる勉強会**のような場があると良かったと思う。

【D.留意点】



(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果_江東区

【E.ブレイクスルー要因】まずは連携可能な団体・課からスモールスタートで取組みを開始し、今後の拡張性を見据えながら、早期のPFを立ち上げを実現。

2023年11月

2023年12月

2024年2月

取組み課題

「孤独・孤立」というテーマは取り組むべき範囲が非常に幅広く、アプローチ範囲・方法についての設定が課題となった。

- 庁内の関係課の巻き込みについては、福祉部内では日頃の業務を通じて連携はしているものの、**課ごとに業務内で対応していることから、PFの効果について丁寧な説明が必要だった**。また、福祉系以外の課については、**誰を巻き込むべきか**の判断が難しい状況であった。
- 庁外については、地域資源が豊富な都市部の自治体であるがゆえに、声掛け可能な対象者は数多くいるものの、**誰へ声を掛けるべきか**絞り込みを行う必要があった。

その後の変化

事業期間内に3回の開催を経て、参加者同士の関係性を構築。来年度以降のテーマや検討の方向性についても検討材料を得ることができた。

- これまで庁内で孤独・孤立に関わる部署が広く連携する機会は無かったが、**庁内での連携体制を構築**することができた。
- 地域の現状について、幅広く深い知見をもったキーパーソンらから**江東区の現状・課題**を把握することができ、来年度以降の方向性について具体的に検討を進めることが可能となった。

アクション／ブレイクスルー要因

PF参加者については定め切らず、**あとから参加者を追加できる枠組み**でスモールスタートでの早期立ち上げを実現。

- まずは担当課にて、**支援対象者を抱えている課を中心に選定**を行い、スモールスタートで早期の立ち上げを目指した。孤独・孤立という横ぐしをさしたテーマについて、「**どのような課題があるのか**」「**なぜ連携が必要か**」といったPFへの参加を説得する材料を用意し、**関係課の課長へ直接説明**を行い巻き込んだ。
- この過程において、**当初想定していなかった課の巻き込みについてアドバイスを受けるなどし、声掛け対象とした**。
- 地域の活動者や関係団体についても同様に、まずは**コアメンバーを選定**。今後孤独・孤立対策に協力いただける企業・団体等に随時参加いただき拡張するフレームとした。